

「夢はラピッドマニユファクチャリング」 今世界中で話題の 「魔法の箱」をつくる会社

アспект

アспект(稲城市東長沼、早野誠治社長、042・370・7900)は、積層造形技術に基づく事業を行うために、平成8年11月に設立された会社である。以前は積層造形技術を説明するのは大変だったが、今では3Dプリンター技術と言えば通じやすくなった。材料とデータを入力すれば、製品の完成品を出力する技術、つまり「ラピッドマニユファクチャリング」「卓上工場」といったイメージで、まさしく「魔法の箱」だ。

同社の技術は3Dプリンター技術の中でもハイエンドに位置付けられるLaser Sintering (LS)技術と呼ばれる、一般的に知られているものとは少々異なる。LS技術とは、ナイロンやポリプロピレン等の樹脂やチタン等の金属を粉末材料として使用し、「①0.1mm程度の粉末の層を形成する ②レーザー光線により所望の形状を焼結・溶解する ③①と②を繰り返して立体形状を製造する」技術で、3D・C A D やX線CTの立体データさえあれば、



樹脂造形モデルサンプル



RaFaE1550



早野誠治社長

すぐに立体として出力できる。この画期的な技術に基づき開発された同社の装置は、ルネサンスにあやかり RaFaE1(ラファエロ)シリーズと命名されて販売しており、「2012年東京都ベンチャー技術大賞」を受賞した。既に RaFaE1シリーズによる機能評価モデルは、自動車や重工業分野で広く使用されている。

ただ、このシリーズはシステム価格が4〜8千万円と非常に高価であり、誰もが簡単に購入できる装置ではない。そのため、同社の富士テクニカルセンターに約10台の装置を設置し、インターネットで造形サービスを受け付けている。現段階ではナイロンやポリプロピレン・TPE等の樹脂材料に限定されるが、将来は金属粉末でのサービスも実施したいと考えている。

早野社長は独立行政法人新エネルギー・産業技術開発機構(NEDO)の実施する「次世代素材等レーザー加工技術開発プロジェクト」にも参加しており、材料開発等のさらなる技術革新に取組んでいる。

詳しくはホームページにて
(<http://www.aspect-rp.co.jp>)